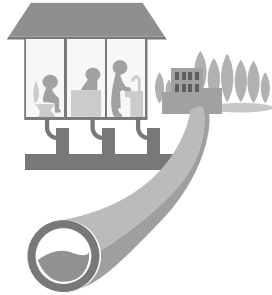


下水道処理のしくみを見てみよう



<案内人>
役場水道課
奥田課長補佐



毎日の生活で使った「汚水」は下水道管を通り、町内最寄りの下水処理場へ



【スクリーンユニット】



下水処理場に運び込まれた下水は、最初にこのスクリーンユニットに集められ、ここで汚水の中にふくまれている大きなゴミや砂などの浮遊固形物を分離・除去。



【脱水設備からJRトラックへ】



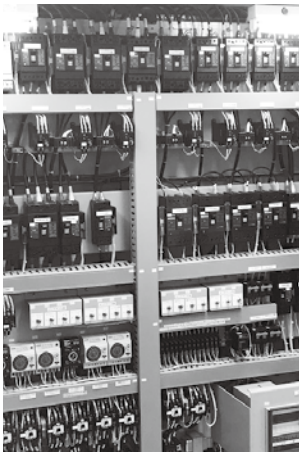
【処理場トラック】



脱水ケーキは処理場トラックで運び出され、JRトラックに移し替えられ、伯耆大山駅へ。そこからJRで宇部駅を經由して、陸送でセメント工場に運搬される。
※運搬先は、その他に境港市内の業者などがあります。

運搬された汚泥は約1500度に焼成され、残った20%の無機物(クリンカー)がセメント材料として生まれ変わります。焼成する時に発生する熱は、工場内の空調設備などの電気エネルギーに有効利用されます。

◆処理場は日々管理されています



▲施設内の電気設備制御盤



(有)米子清掃
星野課長

施設の維持管理・運転業務を任されています。

◆家庭から出た下水の中に、水に溶けないゴミがあると？

マンホールポンプ中のスクリューにそのゴミが詰まりポンプが緊急停止するので、昼夜問わず出勤し、詰まったゴミを取り除きます。

交通量が多い場所や、天気の悪い日の作業は大変です。



▲マンホールポンプを引き上げ、ゴミの取出し作業中